



商業

明治 33（1900）年の鉄道の開通により、土別への移住者が増え始め、停車場通りには、米穀、荒物雑貨、精肉、鮮魚、菓子、呉服、宿屋業などが軒を並べました。さらに開拓は奥地へと進められ、上土別、多寄、温根別などに町ができました。そのおかげで駅前商店街はますます盛況となりました。

昭和 40 年以降になるとスーパーやデパートなどの大型店がオープンし、個人商店が数を減らしていきました。その後も郊外型の大型チェーン店の出店や物流の高速化、情報のグローバル化により、土別の商業は激変しました。

